

【旧約聖書日課】ダニエル書 12章1～4節

1 その時、大天使長ミカエルが立つ。

彼はお前の民の子らを守護する。

その時まで、苦難が続く

国が始まって以来、かつてなかったほどの苦難が。

しかし、その時には救われるであろう

お前の民、あの書に記された人々は。

2 多くの者が地の塵の中の眠りから目覚める。

ある者は永遠の生命に入り

ある者は永久に続く恥と憎悪の的となる。

3 目覚めた人々は、大空の光のように輝き

多くの者の救い

となった人々は

とこしえに星と輝く。

4ダニエルよ、終わりの時が来るまで、お前はこれらのことを秘め、この書を封じておきなさい。多くの者が動揺するであろう。そして、知識は増す。」

【使徒書日課】コリントの信徒への手紙二 5章1～10節

1わたしたちの地上の住みかである幕屋が減びても、神によって建物が備えられていることを、わたしたちは知っています。人の手で造られたものではない天にある永遠の住みかです。2わたしたちは、天から与えられる住みかを上に着たいと切に願って、この地上の幕屋にあって苦しみもだえています。3それを脱いでも、わたしたちは裸のままではおりません。4この幕屋に住むわたしたちは重荷を負ってうめいておりますが、それは、地上の住みかを脱ぎ捨てたいからではありません。死ぬはずのものが命に飲み込まれてしまうために、天から与えられる住みかを上に着たいからです。5わたしたちを、このようになるのにふさわしい者としてくださったのは、神です。神は、その保証として“霊”を与えてくださったのです。6それで、わたしたちはいつも心強いのですが、体を住みかとしているかぎり、主から離れていることも知っています。7目に見えるものによらず、信仰によって歩んでいるからです。8わたしたちは、心強い。そして、体を離れて、主のもとに住むことをむしろ望んでいます。9だから、体を住みかとしていても、体を離れているにしても、ひたすら主に喜ばれる者でありたい。10なぜなら、わたしたちは皆、キリストの裁きの座の前に立ち、善であれ悪であれ、めいめい体を住みかとしていたときに行ったことに応じて、報いを受けねばならないからです。

【福音書日課】ヨハネによる福音書 11章1～16節

1ある病人がいた。マリアとその姉妹マルタの村、ベタニアの出身で、ラザロ

と行った。²このマリアは主に香油を塗り、髪の毛で主の足をぬぐった女である。その兄弟ラザロが病気であった。³姉妹たちはイエスのもとに人をやって、「主よ、あなたの愛しておられる者が病気なのです」と言わせた。⁴イエスは、それを聞いて言われた。「この病気は死で終わるものではない。神の栄光のためである。神の子がそれによって栄光を受けるのである。」⁵イエスは、マルタとその姉妹とラザロを愛しておられた。⁶ラザロが病気だと聞いてからも、なお二日間同じ所に滞在された。⁷それから、弟子たちに言われた。「もう一度、ユダヤに行こう。」⁸弟子たちは言った。「ラビ、ユダヤ人たちがついこの間もあなたを石で打ち殺そうとしたのに、またそこへ行かれるのですか。」⁹イエスはお答えになった。「昼間は十二時間あるではないか。昼のうちに歩けば、つまづくことはない。この世の光を見ているからだ。¹⁰しかし、夜歩けば、つまづく。その人の内に光がないからである。」¹¹こうお話しになり、また、その後で言われた。「わたしたちの友ラザロが眠っている。しかし、わたしは彼を起こしに行く。」¹²弟子たちは、「主よ、眠っているのであれば、助かるでしょう」と言った。¹³イエスはラザロの死について話されたのだが、弟子たちは、ただ眠りについて話されたものと思ったのである。¹⁴そこでイエスは、はっきりと言われた。「ラザロは死んだのだ。¹⁵わたしがその場に居合わせなかったのは、あなたがたにとってよかった。あなたがたが信じるようになるためである。さあ、彼のところへ行こう。」¹⁶すると、ディディモと呼ばれるトマスが、仲間の弟子たちに、「わたしたちも行って、一緒に死のうではないか」と言った。

起こしに行こう！【こども説教のために】

日曜日の朝、わたしたち皆を教会へと招き、導き入れてくださったお方があります。夜の間眠っていたわたしたちを目覚めさせ、寝床から起き上がらせてくださったお方です。このお方が目覚めさせてくださらなかったら、わたしたちは皆、眠ったままだったかもしれません。眠りから目覚めさせ、寝床から起き上がらせてくださったお方が、わたしたちをそれぞれの家から導き出してくださり、神の御前に進み出るようにしてくださり、共に讃美を歌い、御言葉を聞く礼拝に加わらせてくださったのです。

主イエスの友人、ラザロが眠っていました。ラザロが永遠の眠りに就こうとしていると、主イエスに知らせた者がありました。ラザロは、死にかけていたのです。その知らせから、もう二日経っています。ラザロはすでに深い眠りに就いたことでしょう。ラザロは、もはや自分から目覚めることはないでしょう。主イエスは、ようやく弟子たちにおっしゃいました、「わたしたちの友ラザロが眠っている。…わたしは彼を起こしに行く」。

主イエスは、眠っている者を起こしに来てくださるお方なのです。弟子たちを連れて、主イエスは来られます。眠っている者を起こし、神の御前に進み出る者としてくださるために、主イエスは弟子たちと共に行かれるのです。

主の御前に立つ

わたしたちの教会の礼拝をインターネットのライブ配信でお届けするようになって4年半が経とうとしています。コロナ禍騒ぎの中、大慌てで機材を寄せ集めて始めたオンライン礼拝です。思わぬ不具合が生じることもあり、オンラインで礼拝に加わってくださっている方にはご心配、ご迷惑をおかけすることもあります。休むことなく続けていくことができました。とは言え、この数カ月、音声安定しないことが続きました。古い機材の劣化が原因と思われ、入れ替えることで改善を試みています。各家庭でも、礼拝堂に集う者と変わらぬ思いで礼拝にあずかっていたいただきたいからです。音声や画像が乱れることで、礼拝堂に集められている者たちとの間に距離を感じていただきたいくないのです。皆と同じ礼拝堂に身を置くことが困難であっても、同じように主の御前に進み出て賛美を歌い、祈り、御言葉を聞く交わりに加わっていただきたいのです。

わたしは、ご自宅でインターネット越しに礼拝に加わってくださっている皆さんの礼拝する姿を拝見したいと思っております。礼拝堂に集う者たちが大きな歌声で讃美を歌っているとき、祈りがささげられ、信条が唱えられるとき、一緒に声を出して歌い、また唱えてくださっているのでしょうか。共に歌い、唱えてくれる家族がいれば、遠慮なく声を出すこともできるかもしれません。そうであっても、礼拝堂に集って歌い、唱えるときに比べると、ずっと控え目で、弱々しいものになっている、という方も少なくないのではないのでしょうか。

それは、ある意味では仕方のないことです。おかしなことを言いますが、わたしたち地上の教会堂に集まり、礼拝を共にしている者たちも、ある意味でオンライン礼拝をしているのです。天使や聖徒らが主の御座を囲んで大聖歌隊を編成して「天上の礼拝」を繰り広げている、その様子を微かに垣間見させていただきながら、遠く地上から、その礼拝に加えさせていただいている。「天上の礼拝」に比べたら、わたしたち地上の教会の礼拝は、ずっと控え目で、弱々しいものです。どれほど大きな礼拝堂を持つ大教会の礼拝であっても、「天上の礼拝」とは比べようがないでしょう。それでも、わたしたちは、地上の教会堂に集まり、礼拝をします。ここで、「天上の礼拝」を心に思い描きながら、天の御座に在られるお方の御前に進み出させていただいているのです。

主イエスは、すべての者が御前に進み出る者とされることをお望みくださったのです。眠っている者が目覚めさせられ、死んだ者が起き上がられ、すべての者が主の御前へと呼び集められていることを、お示しくださったのです。弟子たちも、死んだラザロも、すべての者たちが、です。

友が眠っている

わたしたちが地上の教会で礼拝にあずかることができるのは、天にあって神の御座の前に繰り広げられている礼拝者の群れがあることを知っているからです。「ヨハネの黙示録」を記した僕ヨハネは、主の日の礼拝にあずかっていたときに幻を示され、天に引き上げられて、天上の礼拝を見せられ、その様子を伝えました。

主イエスは、そのような天上の礼拝の様子を具体的にお語りになってはいません。使徒たちも同様です。それでも、すべての者がいずれ天上で神の御前に進み出るようにされることは、語られています。それは、「ダニエル書」にも示されているような、「終わりの日の目覚め」として語られる終末の復活としてであったかもしれません。ユダヤ教でも、キリスト教でも、またイスラム教でも、終末の復活ということを教えてきました。

主イエスの死とご復活を伝えた弟子たちは、「終末の復活」として教えられてきたことが、主イエスのご復活によってすでに始まっていると信じたのです。「終わりの日」を待たずに、すでに、ご復活された主イエスによって、天上の御座を囲んで礼拝にあずかる天使や聖徒らの交わりに加えられている、と教えたのです。

それは、しかし、すべての者に明らかなことではありません。わたしたちの目は、そのようなことを黙っていても見るようにはされていないのです。ただ、主イエスとの出会いによって、主イエスに目を開かれることによって、主イエスと共に御前に立つ者とされることによって、わたしたちは、天上に至らずとも、地上にいながら、天上の礼拝の交わりに招かれ、加えられているのです。

けれども、主イエスと出会っていない者があるのです。天上の礼拝を知らずに、まだ目が開かれていない者があるのです。目が開かれず、眠ったままの者があるのです。主イエスは、弟子たちに言われました、「友が眠っている。起こしに行こう」と。弟子たちも、眠っている友を起こしに行くのです。主イエスが目覚めさせてくださることを信じて、友を起こしに行くのです。いいえ、自分も主イエスによって目覚めさせられたものであるからこそ、友を起こしに行くのです。

わたしたちも、眠りから目覚めさせられ、天上の礼拝を遥かに仰ぎ見ながら、御座に一歩近づく者とされてきたのです。そのような者として、今日も、礼拝堂へと集められ、御前に進み出てきたのです。まだ、わたしたちの目覚めは十分ではないかもしれません。眠りに落ちることもあるかもしれません。それでも、すでに目覚めは始まっています。すべての者が目覚めさせられ、起き上がらせられるときは、すでに始まっているのです。